

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	応用栄養学実習						授業形態		実習	
科目コード	304900	単位数	1単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	出口 佳奈絵								ICT活 用	○
授業概要	本科目では、各ライフステージにおける栄養管理の基本的な考え方を理解したうえで、妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の評価と判定に必要な基本的技能を修得することを目的とする。栄養管理は、健康の維持・増進から疾病の予防と治療のみならず、疾病の重症化予防、さらには介護予防という広い範囲で重要である。多様化する対象者のライフステージやライフスタイルに応じた健康課題について、客観的に評価する科学的視点を深めることで専門職としての総合力を養うことを目指す。									
関連する科目	(履修前) 基礎栄養学、からだと疾病、応用栄養学、臨床栄養学、栄養教育論、調理学実習、食事計画論実習									
授業の進め方 と方法	実習内で課題解決のためのグループ協議とプレゼンテーションを行う。 課題管理は、ユニバを活用して行う。									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション ライフステージにおける栄養アセスメントと栄養管理について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	成人期の栄養管理演習①評価 成人期の栄養アセスメントについて学ぶ。									
授業計画 【第3回】	成人期の栄養管理演習②考察 身体的特徴（体温・血圧・体組成）と食生活との関連について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	成人期の栄養管理演習③検討 健康課題の抽出と改善の提案についてグループ協議を行う。									
授業計画 【第5回】	成人期の栄養管理演習④報告 成人期の栄養ケア・マネジメントについてプレゼンテーションを行う。									
授業計画 【第6回】	妊娠期・授乳期の栄養管理演習①評価 妊婦の栄養スクリーニング、栄養アセスメントについて学ぶ。									
授業計画 【第7回】	妊娠期・授乳期の栄養管理演習②考察 妊婦の生理的特徴と栄養の関連について学ぶ。									
授業計画 【第8回】	妊娠期・授乳期の栄養管理演習③検討 健康課題の予防と改善を考えた食生活の提案についてグループ協議を行う。									
授業計画 【第9回】	妊娠期・授乳期の栄養管理演習④報告 妊娠期の栄養ケア・マネジメントについてプレゼンテーションを行う。									
授業計画 【第10回】	新生児・乳児期の栄養管理演習・実習 子どもの成長度に適した栄養管理および支援方法について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	総合討論（１） 実習での成果を小括し、客観的な視点から討論を行う。
授業計画 【第12回】	高齢期の栄養管理演習①評価・考察 高齢者の栄養アセスメントについて学ぶ。
授業計画 【第13回】	高齢期の栄養管理演習②評価・考察 高齢者の身体機能と活動変化について学ぶ。
授業計画 【第14回】	高齢期の栄養管理演習③ 健康課題を念頭に予防と改善の提案についてグループ協議を行う。
授業計画 【第15回】	総合討論（２） 実習での成果を総括し、多角的な視点から討論を行う。
授業の到達目標	①栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を修得する。【知識・理解の育成・多様性理解の育成】 ②ライフステージ各期の栄養アセスメントに基づいた栄養管理について理解を深める。【問題解決力・論理的思考力の育成】 ③協働活動の重要性を自覚し、適切な言動とモチベーション向上に努める。【コミュニケーション力の向上・チームワークの育成】
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外学習【予習】	基礎栄養学・応用栄養学・臨床栄養学分野の講義で学習した内容を復習しておくこと。（45分）
授業時間外学習【復習】	実習当日、実習ノートの整理を行い、毎回の到達目標を理解できるよう努めること。（45分） 各ライフステージにおける対象者の特徴や課題について理解しようと「探求する」こと。
課題に対する フィードバック	・実習での成果は総合討論で解説する。 ・グループ協議に対する助言を行う。 ・成果発表では互いに討論を行う。
評価方法・基準	①授業内提出物(10%) ②授業内協働活動(20%) ③実習レポート(70%) ＊総合的に評価する。
テキスト	プリント配布
参考書	栄養科学シリーズNEXT「応用栄養学 第7版」（講談社）木戸康博ら編（2025） 「日本人のための食事摂取基準(2025年版)」 その他、参考書・参考文献は適宜紹介する。
備考	実習はグループ単位で実施する。 実習レポート(A4ノート)は各人で提出すること。